

場面想定法を用いた相談内容とコンプリメントの違いが 問題解決に及ぼす影響

王 家 芸¹⁾・山 本 眞利子³⁾・出 雲 文 子²⁾

要 約

川口ら (2017) は、場面想定法を用いて大学生が学生相談室のカウンセラーから4つの異なるコンプリメントを行ってもらった場面を想定した条件での問題解決への取り組みを調べ、異なる影響が示唆された。本研究では、川口ら (2017) を参考に、大学生の自分の学業、友人関係、家族関係の各相談場面で、カウンセラーが内的リソースへの示唆、外的リソースへの示唆、努力への敬意、なしの各応答を行った場面を想定してもらい、インナー스트レングス尺度とコンプリメントによる解決志向尺度に評定してもらった。結果、インナーストレングス尺度のつながり得点で相談内容とカウンセラー応答の交互作用が示された。友人関係では努力への敬意がなしより高く、自分の学業では外的リソースへの示唆が他の応答より高く、家族関係ではなしが他の応答より有意に低かった。このことから、友人関係では友達との関係を維持するための努力への敬意が、学業ではよい友人に恵まれていることへのコンプリメントによってつながり得点が高いことが示唆された。解決志向尺度の相手への信頼得点で交互作用が有意傾向で、友人関係で内的リソースへの示唆と努力への敬意がなしより高く、自分の学業と家族関係でなしが他の応答より低かった。このことから、コンプリメントがあることで信頼得点が高いことが示唆された。

キーワード：コンプリメント、解決志向、インナーストレングス、場面想定法

問題・目的

コンプリメントとは、解決志向ブリーフセラピーの中心技法の一つであり、称賛や労うことを意味する (森・黒沢, 2002)。黒沢 (2008) はクライアントがコンプリメントをもらった後、それが自分のリソースと気づき、受け入れができればそれを活かし、使えるようになることが大切だと提唱している。このことから、コンプリメントによって、人が自分のリソースに気付くことができると考えられるが、コンプリメントの違いによって結果が異なるとも考えられる。

川口・白濱・古賀 (2017) は、場面想定法を用いて大学生を対象に対人関係と学業の相談内容について、学生相談室のカウンセラーから4つの異なるコンプリ

メント (努力への敬意・内的リソースの示唆・外的リソースの示唆・困難への理解) を行ってもらった場合を想定し、どの程度、問題解決のために行動できると思うかを調べた。結果、カウンセラーの「努力への敬意」が行われた場合に比べて「内的リソースへの示唆」が行われた場合の方が、解決への着目得点が有意に高かったことが示された。川口他 (2017) の研究より、カウンセラーが行うコンプリメントの違いが問題解決への取り組みに異なる影響を及ぼすことが示唆された。しかし、川口他 (2017) では、相談内容毎の分析が行われていないため、相談内容による違いはわからなかった。相談内容とコンプリメントの違いによって問題解決得点は異なるのではないかと考えられる。

以上のことから、本研究では川口他 (2017) を参考

1) 久留米大学院心理学研究科

2) 久留米大学院心理教育相談センター

3) 久留米大学文学部心理学科

に、自分の学業と友人関係の相談内容にコロナ禍の経済問題に関する家族関係の相談内容を加え、異なる3つの相談内容を設定する。コンプリメントは川口他(2017)を参考に内的リソースへの示唆、外的リソースへの示唆と努力への敬意とする。さらに、本研究では、各コンプリメント文の前に、クライアントの応答に対するもっとも単純な応答である(玉瀬, 1998)最小限の励まし「そうなんです」を加え、カウンセラー応答とする。具体的に、内的リソースへの示唆のカウンセラー応答(「そうなんです」と内的リソースへの示唆のコンプリメント)、外的リソースへの示唆のカウンセラー応答(「そうなんです」と外的リソースへの示唆のコンプリメント)、努力への敬意のカウンセラー応答(「そうなんです」と努力への敬意のコンプリメント)とする。対照として、コンプリメントなしのカウンセラー応答(「そうなんです」のみ)を設定する。従って、カウンセラー応答は内的リソースへの示唆、外的リソースへの示唆、努力への敬意、なしの4つとなる。

本研究の目的は、場面想定法を用いて、3つの相談内容におけるコンプリメントを含めたカウンセラー応答の違いが問題解決に及ぼす影響について比較、検証することである。

方 法

研究計画

3相談内容(自分の学業・友人関係・家族関係)×4カウンセラー応答(内的リソースへの示唆・外的リソースへの示唆・努力への敬意・なし)。相談内容が被験者間、カウンセラー応答は被験者内の研究計画。

調査対象と時期

本研究の趣旨を説明し同意が得られた大学生48名にパソコンを用いたGoogleフォーム質問紙の調査を実施した。回答の中から欠損値のない48名(男性13名、女性35名)を分析対象とした。平均年齢は20.10歳(SD=1.32)。そのうち自分の学業群は15名、友人関係群は17名、家族関係群は16名であった。実施時期は2021年4月～7月(コロナ感染症対策下)であった。

質問紙構成

1. フェイスシート

性別、年齢、学年の記入を求めた。

2. 日本語版インナー스트レンクス尺度 (ISS-J)

Lundman et al. (2011)により作成されたインナーストレンクス尺度の日本語版 (ISS-J) (遠藤・北見・満石・大石, 2016)を使用した。「創造性」(6項目)、「堅固性」(6項目)、「つながり」(3項目)の3因子からなる。全15項目であり、「1. 全くあてはまらない」、「2. ほとんどあてはまらない」、「3. あまりあてはまらない」、「4. 少しあてはまる」、「5. ほぼあてはまる」、「6. よくあてはまる」の6件法により回答を求めた。

3. コンプリメントによる解決志向尺度

川口他(2017)により作成された。「解決への着目」(6項目)と「相手への信頼」(3項目)の2因子からなる。全9項目であり、「1. 全く当てはまらない」、「2. 当てはまらない」、「3. どちらでもない」、「4. 当てはまる」、「5. 非常によく当てはまる」の5件法により回答を求めた。

4. 自由記述

応答をしてもらった感想の記入を求めた。

材料

1. 相談内容

川口他(2017)を参考に筆者が作成。協力者が自ら学生相談室を訪ね、カウンセラーに相談した場面を想定してもらうための刺激文。相談内容は自分の学業、友人関係と家族関係の3つとした。(Table 1)

2. カウンセラー応答

川口他(2017)を参考に筆者が作成。協力者に、相談内容に対してカウンセラーから応答をしてもらった場面を想定してもらうための刺激文。内的リソースへの示唆、外的リソースへの示唆、努力への敬意、なしの4つとした。(Table 1)

3. パソコン

パソコン教室のパソコン。各パソコンの横に、教師用パソコンの画面が共有できるサブモニターがある。パソコンはGoogleフォーム質問紙への回答に使用した。サブモニターは教示文の提示に使用した。

4. 教示用パワーポイント(自己作成)

パワーポイントは、各相談内容に応じた異なる4つのカウンセラー応答を受ける相談場面を想定した教示文がランダムに提示されるように、筆者が作成した。以下は、実際使われた自分の学業・内的リソースへの示唆のパワーポイントの内容の例である。

(1) 相談内容の教示文

次の学生相談室での相談場面について想像してく

Table 1 各相談内容とカウンセラー応答

	相談内容	カウンセラー応答
自分の学業	学年があがり専門科目が増え、いっきにレポート課題と発表課題が出されるようになりました。レポート課題と発表課題が同時に出されることもしばしばです。レポート課題も発表課題も、自分で考え調べた上で書かなければなりません。しかし、何をどう書けばよいのかわかりません。どういうふうに調べればよいのかもわかりません。友達と一緒に教科書を買いました。時間をかけて読んだのですが、読めば読むほどわからなくなるという感じです。レポートの書き方について、友達にも相談をしたのですが、友達もわからない様子です。どうしたものかと思っています。	内的リソースへの示唆 そうなんです。参考書まで探して読み込み、あなたには妥協せず、ねばり強いところがあるのです。
		外的リソースへの示唆 そうなんです。学業について相談できる、良い友人に恵まれているのです。
		努力への敬意 そうなんです。時間をかけて自分なりに課題に取り組み、よく頑張ってこられましたね。
		なし そうなんです。
友人関係	Aさんとは、以前からの友達で同じ大学に入りました。しかし、学部が違えば一緒にいる時間が少なくなり、以前のように仲良くできなくなりました。そのため、何度もAさんを遊びに誘っていましたが、断られることが多くなりました。ある日、Aさんが歩いているところを見て挨拶しましたが、Aさんは何も返事をせずに行ってしまいました。Aさんに無視されたのではないかと心配になり家族に相談しましたが、「気のせいだよ」と言われました。その返事になかなか納得できないのです。これから、Aさんとどんなふうにつきあっていけばいいのかわからないのです。	内的リソースへの示唆 そうなんです。断られても遊びに誘ったり挨拶したりして、あなたには友達を想うやさしさがありますね。
		外的リソースへの示唆 そうなんです。友人関係について相談できる、良い家族に恵まれているのです。
		努力への敬意 そうなんです。友達との関係を維持するため、何度も遊びに誘って、よく頑張ってこられましたね。
		なし そうなんです。
家族関係	家族との関係について悩んでいます。新型コロナウイルスの影響で、アルバイト先の勤務時間が大幅に短くなってしまっ、月収は以前の半分以下になってしまいました。生活費が足りません。実家の家計状況で大学に通わせてもらっているだけでも十分なので、さすがに生活費まで親に頼るのは難しいと感じています。親と相談しにくく、特に父には言いにくいです。子どもの頃から、ずっと父に「自分のことは自分でやるように」と厳しく言われ続けました。そのため、生活上に困難があっても、ずっと家族に言い出せずにいます。友人と相談しましたが、友人も同じような悩みを持っています。私の気持ちを理解してもらうことはできましたが、解決できそうもないです。どうしたらいいのかと思っています。	内的リソースへの示唆 そうなんです。親に負担をかけたくない、あなたには家族への思いやりがありますね。
		外的リソースへの示唆 そうなんです。家族関係について相談できる、良い友人に恵まれているのです。
		努力への敬意 そうなんです。家族との関係を維持するため、今までよく頑張ってこられましたね。
		なし そうなんです。

ださい。あなたが自分の学業のことで学生相談室を訪れたとします。あなたは、学生相談室のカウンセラーに次の内容を相談しました。そして、カウンセラーから応答をしてもらえたと想像してください。カウンセラーからの応答は全部で4つあります。

(2) 相談内容 (自分の学業)

「学年があがり専門科目が増え、いっきにレポート課題と発表課題が出されるようになりました。レポート課題と発表課題が同時に出されることもしばしばです。レポート課題も発表課題も、自分で考え調べた上で書かなければなりません。しかし、何をどう書けばよいのかわかりません。どういうふうに調べればよいのかもわかりません。友達と一緒に参考書を買いました。時間をかけて読んだのです

が、読めば読むほどわからなくなるという感じです。レポートの書き方について、友達にも相談をしたのですが、友達もわからない様子です。どうしたものかと思っています。」

(3) カウンセラー応答の教示文

カウンセラーに相談したとき、カウンセラーから次の応答をもらえたと想像してください。応答は4つあります。

(4) カウンセラー応答 (自分の学業 - 内的リソースへの示唆)

「そうなんです。参考書まで探して読み込み、あなたには妥協せず、ねばり強いところがあるのです。」

結果

相談内容 (2) とカウンセラー応答 (4) は筆者が読み上げたものの録音が行われるようにし、他の教示文 (1) (3) は実施の際に筆者が読み上げた。自分の学業、友人関係と家族関係の3群において、それぞれ対応する4つの異なるカウンセラー応答 (内的リソースへの示唆、外的リソースへの示唆、努力への敬意、なし) のパワーポイントを用意した。

手続き

調査はパソコン教室で各群2人～7人の小グループにて実施した。協力者が教室に入室した後、各協力者のメールアドレスに Google フォーム質問紙の URL を送った。研究の説明をした後、同意が得られた各群の協力者にパワーポイントを用いて教示文を提示しながら、1つのカウンセラー応答毎に、日本語版インナーストレングス尺度 (遠藤他, 2016)、コンプリメントによる解決志向尺度 (川口他, 2017)、自由記述に回答を求めた。なお、4つのカウンセラー応答がパワーポイントによってランダムに提示されるため、実施の際に提示される順番によって応答①～応答④と称した。調査の所要時間は30分～50分であった。手続きは Figure 1 で示す。

調査前	調査 (30分～50分)			
調査協力者の同意	相談内容+応答①の教示	質問紙回答	相談内容+応答②の教示	質問紙回答
	相談内容+応答③の教示	質問紙回答	相談内容+応答④の教示	質問紙回答
	相談内容+応答①の教示	質問紙回答	相談内容+応答②の教示	質問紙回答
	相談内容+応答③の教示	質問紙回答	相談内容+応答④の教示	質問紙回答

Figure 1 調査の手続き

倫理的配慮

協力者に対して本研究の趣旨を説明し、質問紙の「同意する」の欄をクリックしてもらうことで同意を得た。説明の際には、質問紙への回答が任意であること、回答の可否によって個人への不利益が生じないこと、回答の途中で辞退が出来ること、得られたデータは統計的に処理し、プライバシーの保護を徹底することを伝えた。なお、本研究は久留米大学御井学舎倫理委員会 (研究番号: 403) の承認を得た。

1. 2要因分散分析の結果について

相談内容 (自分の学業・友人関係・家族関係) とカウンセラー応答 (内的リソースへの示唆・外的リソースへの示唆・努力への敬意・なし) によって、インナーストレングスとコンプリメントによる解決志向が異なるかを検証するため、2要因混合分散分析を行った。各尺度得点の平均得点と分散分析の結果を Table 2 に示す。以下、内的リソースへの示唆を「内的」、外的リソースへの示唆を「外的」、努力への敬意を「努力」と称する。

(1) 日本語版インナーストレングス尺度

①創造性

分析の結果、カウンセラー応答の主効果が有意であった ($F(3,135)=20.82, p<.01, \text{partial } \eta^2=.32$)。Holm法による多重比較の結果、因子の点数は「内的」=「外的」=「努力」>なしであった ($MSe=10.20, p<.05$)。また、相談内容の主効果は見られなかった ($F(2,45)=.64, n.s., \text{partial } \eta^2=.03$)。さらに、相談内容×カウンセラー応答の交互作用は示されなかった ($F(6,135)=1.58, n.s., \text{partial } \eta^2=.27$)。

②堅固性

分析の結果、カウンセラー応答の主効果が有意であった ($F(3,135)=32.31, p<.01, \text{partial } \eta^2=.42$)。Holm法による多重比較の結果、因子の点数は「内的」=「努力」>なし>「外的」であった ($MSe=10.42, p<.05$)。また、相談内容の主効果は見られなかった ($F(2,45)=.105, n.s., \text{partial } \eta^2=.04$)。さらに、相談内容×カウンセラー応答の交互作用は示されなかった ($F(6,135)=.99, n.s., \text{partial } \eta^2=.04$)。

③つながり

分析の結果、カウンセラー応答の主効果が有意であった ($F(3,135)=32.31, p<.01, \text{partial } \eta^2=.38$)。Holm法による多重比較の結果、因子の点数は「内的」=「外的」=「努力」>なしであった ($MSe=5.77, p<.05$)。相談内容の主効果は見られなかった ($F(2,45)=1.05, n.s., \text{partial } \eta^2=.02$)。また、相談内容×カウンセラー応答には有意な交互作用が示された ($F(6,135)=32.37, p<.01, \text{partial } \eta^2=.09$)。下位検定の結果、自分の学業群 ($F(3,135)=32.31, p<.01$) では「外的」>「内的」=「努力」>なしであり、友人関係群 ($F(3,135)=76.42, p<.01$) では「努力」>なしであり、家族関係群 ($F(3,135)=76.40, p<.01$) では「内的」=「外的」=「努力」>なしであった (Holm法)。

Table 2 2要因分散分析の結果

	自分の学業群				友人関係群				家族関係群				F 値			partial η ²			
	内的	外的	努力	なし	内的	外的	努力	なし	内的	外的	努力	なし	相談内容	カウンセラー応答	交互作用	相談内容	カウンセラー応答	交互作用	
インテリジェンス ストレングス 尺度	創造性	25.18 (4.31)	23.65 (5.11)	23.82 (4.40)	19.26 (4.75)	21.93 (5.14)	21.00 (6.19)	23.20 (6.25)	19.53 (6.15)	22.00 (4.29)	22.00 (4.44)	24.09 (3.29)	18.06 (4.80)	.64	20.82** 内的=外的=努力>なし	1.58	.03	.32	.07
	堅固性	23.82 (4.46)	17.94 (4.41)	23.12 (5.70)	19.06 (4.88)	21.67 (4.71)	16.67 (4.67)	23.53 (5.98)	19.93 (5.26)	23.94 (3.96)	19.97 (3.11)	24.81 (4.03)	21.00 (4.89)	1.05	32.31** 内的=努力>なし>外的	.99	.04	.42	.04
	つながり	12.76 (2.31)	14.76 (2.65)	12.65 (3.25)	9.47 (3.05)	12.40 (3.22)	12.13 (3.74)	13.80 (3.53)	10.33 (3.96)	11.94 (3.21)	12.88 (3.31)	12.81 (3.17)	8.25 (3.25)	.56	27.41** 内的=外的=努力>なし	2.34*	.02	.38	.09
解決志向尺度	の解決への着目	20.76 (2.98)	24.94 (5.15)	20.12 (4.70)	15.47 (4.20)	19.13 (4.79)	21.60 (6.25)	21.73 (5.12)	16.40 (5.29)	20.69 (4.12)	23.44 (5.17)	22.25 (3.96)	15.25 (4.26)	.19	32.69** 外的>内的=努力>なし	1.63	.01	.42	.07
	の相手への信頼	11.47 (2.00)	11.47 (2.48)	10.41 (3.26)	5.53 (2.28)	10.87 (2.83)	10.27 (2.91)	12.73 (3.11)	6.80 (3.58)	10.50 (2.98)	11.25 (2.36)	12.19 (2.65)	6.69 (3.33)	.29	43.82** 内的=外的=努力>なし	.87+	.10	.49	.08

上段：平均値 下段：標準偏差

+p<.10 *p<.05 **p<.01

(2) コンプリメントによる解決志向尺度

①解決への着目

分析の結果、カウンセラー応答の主効果が有意であった ($F(3,135)=32.69, p<.01, \text{partial } \eta^2=.42$)。Holm法による多重比較の結果、因子の点数は「外的」>「内的」=「努力」>なしであった ($MSe=15.29, p<.05$)。また、相談内容の主効果は見られなかった ($F(2,45)=.19, n.s., \text{partial } \eta^2=.01$)。さらに、相談内容とカウンセラー応答の交互作用は示されなかった ($F(6,135)=1.63, n.s., \text{partial } \eta^2=.07$)。

②相手への信頼

分析の結果、カウンセラー応答の主効果が有意であった ($F(3,135)=43.82, p<.01, \text{partial } \eta^2=.49$)。Holm法による多重比較の結果、因子の点数は「内的」=「外的」=「努力」>なしであった ($MSe=6.72, p<.05$)。相談内容の主効果は見られなかった ($F(2,45)=.29, n.s., \text{partial } \eta^2=.01$)。また、相談内容×カウンセラー応答の交互作用には有意傾向が示された ($F(6,135)=1.58, p<.10, \text{partial } \eta^2=.08$)。下位検定の結果、自分の学業群 ($F(3,135)=19.14, p<.01$) と家族関係群 ($F(3,135)=13.83, p<.01$) において、因子の点数は「外的」=「内的」=「努力」>なしであった (Holm法)。友人関係群 ($F(3,135)=14.59, p<.01$) において、因子の点数は「内的」>なし、「努力」>「外的」>なしであった (Holm法)。

2. 自由記述について

(1) 特徴語の出現回数

内的リソースへの示唆の総抽出語数は1329語、異なり語数は276語であった。特徴語には「自分」(26回)、「思う」(22回)、「感じる」(11回)、「少し」(8回)、「気持ち」(7回)などがあった。これら特徴語のうち上位30語と出現回数を Table 3 に示す。

Table 3 カウンセラー応答をもらった感想における特徴語の出現回数 (内的リソースへの示唆の上位 30)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	自分	26	11	思いやり	6	21	安心	3
2	思う	22	12	認める	6	22	具体	3
3	感じる	11	13	聞く	6	23	肯定	3
4	少し	8	14	相談	5	24	思える	3
5	気持ち	7	15	褒める	5	25	親	3
6	言う	7	16	理解	5	26	内容	3
7	応答	6	17	話	5	27	不安	3
8	解決	6	18	思い	4	28	問題	3
9	感じ	6	19	努力	4	29	落ち着く	3
10	嬉しい	6	20	評価	4	30	カウンセラー	2

外的リソースへの示唆の総抽出語数は1521語、異なり語数は286語であった。特徴語には「友人」(35回)、「

「相談」(33回), 「思う」(31回), 「家族」(14回), 「自分」(13回) などがあった。これら特徴語のうち上位30語と出現回数を Table 4に示す。

Table 4 カウンセラー応答をもらった感想における特徴語の出現回数(外的リソースへの示唆の上位 30)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	友人	35	11	恵まれる	8	21	褒める	4
2	相談	33	12	応答	7	22	問題	4
3	思う	31	13	少し	7	23	理解	4
4	家族	14	14	話	7	24	話す	4
5	自分	13	15	良い	6	25	カウンセラー	3
6	関係	10	16	嬉しい	5	26	違う	3
7	言う	10	17	聞く	5	27	解決(否定)	3
8	解決	9	18	考える	4	28	確か	3
9	感じる	9	19	肯定	4	29	感じ	3
10	気持ち	8	20	悩み	4	30	的外れ	3

努力への敬意の総抽出語数は1420語, 異なり語数は267語であった。特徴語には「自分」(36回), 「思う」(27回), 「感じる」(17回), 「相談」(13回), 「頑張る」(11回) などがあった。これら特徴語のうち上位30語と出現回数を Table 5に示す。

Table 5 カウンセラー応答をもらった感想における特徴語の出現回数(努力への敬意の上位 30)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	自分	36	11	解決	6	21	聞く	4
2	思う	27	12	頑張り	6	22	良い	4
3	感じる	17	13	努力	6	23	アドバイス	3
4	相談	13	14	応答	5	24	維持	3
5	頑張る	11	15	思える	5	25	回答	3
6	認める	11	16	褒める	5	26	関係	3
7	今	8	17	感じ	4	27	気	3
8	嬉しい	7	18	気持ち	4	28	状況	3
9	理解	7	19	言葉	4	29	親身	3
10	カウンセラー	6	20	肯定	4	30	人	3

なしの総抽出語数は1208語, 異なり語数は247語であった。特徴語には「思う」(23回), 「感じる」(18回), 「話」(16回), 「相談」(13回), 「聞く」(13回) な

どがあった。これら特徴語のうち上位30語と出現回数を Table 6に示す。

Table 6 カウンセラー応答をもらった感想における特徴語の出現回数(なしの上位 30)

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	思う	23	11	カウンセラー	5	21	頑張る	3
2	感じる	18	12	応答	5	22	共感	3
3	話	16	13	少し	5	23	内容	3
4	相談	13	14	返事	5	24	悩み	3
5	聞く	13	15	本当に	5	25	比べる	3
6	一言	7	16	言う	4	26	返す	3
7	不安	7	17	聞く(否定)	4	27	もう少し	2
8	冷たい	7	18	理解	4	28	印象	2
9	自分	6	19	外	3	29	回答	2
10	そっけ(否定)	5	20	感じ	3	30	気持ち	2

(2) 共起ネットワーク

各カウンセラー応答をしてもらった感想を自由記述により求めた。感想の内容について比較するために, KH-Coder3(樋口, 2020)を用いて分析を行い, 共起ネットワークを描いた(Figure 2)。カウンセラー応答をしてもらった感想の一部抜粋を付録にて示す。

考 察

1. 量的結果

量的結果から, コンプリメントがあることで, 創造性, つながり, 解決への着目と相手への信頼が高いことが示唆された。解決への着目では個人の能力(内的)や努力より良い友人や家族に恵まれている(外的)ことをコンプリメントされた方が高かった。解決への着目因子は「解決のためのリソースへ着目したり, 困難や問題と思っていたものの中から解決がすでに起こっている部分への着目」を測定する項目によって構成されている(川口他, 2017)。協力者は友人や家族などの外的リソースへのコンプリメントを受けることで, 解決のための他者に着目することができたのかもしれない。以上の結果は, カウンセラーの「努力への敬意」が行われた場合に比べて「内的リソースへの示唆」が行われた場合の方が, 解決への着目得点が有意に高かったという川口他(2017)の結果と異なった。その

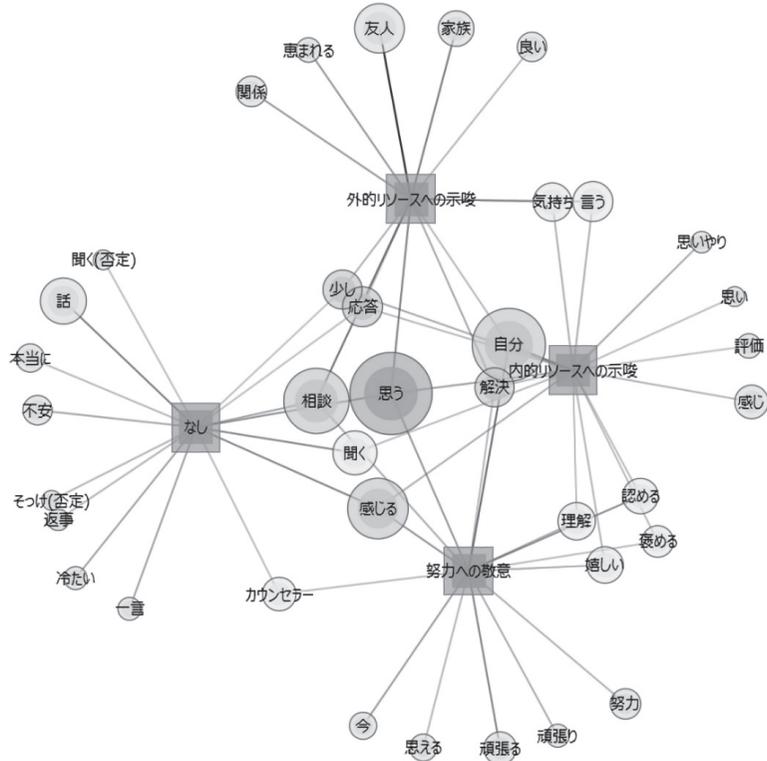


Figure 2 自由記述の条件別共起ネットワーク

原因として考えられるのは、川口他 (2017) では4つのコンプリメントが被験者間条件であったのに対して、本研究では、自分の学業、友人関係、家族関係いずれかの相談内容が被験者間条件であった。この理由としては、現実的に相談者が相談する際、相談場面で取り上げられる相談内容は、一度に一つに絞られることが多く、カウンセラー応答が相談内容によって異なると考えられたためである。さらに、本研究では川口他 (2017) と違い、相談内容とカウンセラー応答に対応する音声を用意され、被験者が音声によるカウンセラー応答を受けていた。このように、本研究は研究手法が川口他 (2017) と異なり、協力者が各種のカウンセラー応答を受けた時の気持ちを比較しながら質問紙と自由記述に回答することができた。これらによって、結果的に違いが生じたと考えられる。

2. 質的結果

量的結果からみると、コンプリメントがあることで、創造性、つながり、解決への着目と相手への信頼が高いことが示唆された。そのため、4つのカウンセ

ラー応答の質的違いを見るために、K-H Coderによる分析を行った。

本研究が注目するキーワード「解決」が内的リソースへの示唆、外的リソースへの示唆と努力への敬意3条件共通の特徴語として抽出された。原文を見ていくと、内的リソースへの示唆では“自分の性格について言ってくれるのはうれしいが、どうしたらいいかの解決がわからないと思う。”のような記述が、努力への敬意では“自分の状況を理解してくれたことはうれしいですが、解決策を出してくれるかどうかについては不安に感じました。”などの記述が見られた。内的リソースへの示唆と努力への敬意ではいずれも解決方法が分からないことについての不安が述べられ、自ら解決に着目しようとする記述も見られなかった。外的リソースへの示唆でも“良い家族に恵まれていることが分かって嬉しいが、問題解決につながるとは思えない。”のような、カウンセラー応答を受けたとしても問題解決につながると思えないという記述が見られた。しかし一方で、“根本的な問題解決には至らないが、友人と協力して問題解決を行うことに対しての意思が芽生え

るような気がした。”のような他者と協力して問題解決に取り組もうとする記述がいくつかあった。外的リソースへのコンプリメントを受けることによって、他者の存在が意識でき、他者と協力しながら問題解決に取り組む意志が芽生える可能性があると考えられる。

3. 総合考察

以上の結果から、外的リソースをコンプリメントされた場合は問題を解決するためのリソースである他者に気づいたり、解決につながる部分に注目することができると言える。本来は実際のカウンセリング場面での検証が必要だが、コロナ禍での場面想定法を用いた本研究での限界があるものの、カウンセリングにおいて、来談者の外的リソースに注目することも重要であると考えられる。

謝 辞

本研究ならびに本論文の作成にあたり、快くご協力いただいた協力者の皆様、多くの助言や励ましをくださった山本ゼミの院生の皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

Berg, I.K (1994). *Family Based Services*. New York: Norton.
(磯貝 希久子 (監訳) (1997). 家族支援ハンドブック—ソリューション・フォーカスト・アプローチ 金剛出版, 221-222)

Terry S. Trepper, Erick E. McCollum., DeJong, P, Korman, H., Wallace J. Gingerich., and Cynthia Franklin (2012). 解決志向ブリーフセラピーマニュアル Cynthia Franklin., Terry S. Tr'opper., Erick E. McCollum., and Wallace J. Gingerich. (Eds.) *Solution-Focused Brief Therapy: A handbook of Evidence-Based Practice*. Oxford University Press.

(長谷川 啓三・生田 倫子・日本ブリーフセラピー協会 (訳) (2013). 解決志向ブリーフセラピーハンドブック—エビデンスに基づく研究と実践 金剛出版, 26-41)

遠藤 伸太郎・北見 由奈・満石 寿・大石 和男 (2016). 日本語版インナー스트レンクス尺度 (ISS-J) の開発—大学生を対象としたデータから— *Journal of Health Psychology Research*, 29, 39-44.

玉瀬 耕治 (1998). *カウンセリング技法入門* 教育出版, 51-53

黒沢 幸子 (2008). *タイムマシン心理療法未来・解決志向のブリーフセラピー* 日本評論社, 199・287-288

川口 智也・白濱 あかね・古賀 聡 (2017). 場面想定法を用いた相談場面におけるコンプリメントの効果に関する検討：賞賛獲得欲求・拒否回避欲求に着目して *九州大学総合臨床心理研究*, 8, 25-36.

白木 孝二 (1994). *BFTC・ミルキーウォーカー・アプローチ* 宮田敬一 (編). *ブリーフセラピー入門* 金剛出版, 102-117

樋口 耕一 (2020). *社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して：KH Coder official book* ナカニシヤ出版

Counseling scenes using the scene imagination method and the effects of different compliments on problem resolution

JIAYI WANG (*Graduate School of Psychology, Kurume University*)

MARIKO YAMAMOTO (*Department of Psychology, Faculty of Literature, Kurume University*)

AYAKO IZUMO (*Kurume University Graduate School of Psychology, Psychological Education Counseling Center*)

Abstract

Kawaguchi et al. (2017) used the scene imagination method on university students to examine problem resolution actions in imaginary scenes of student counseling in which the counselor gave four types of compliments and found different effects. Based on that study, we gave university students imaginary counseling scenes concerning their school performance, friendships, and family relationships in which the counselor suggested they have internal resources, suggested external resources, respected their effort, or gave no compliment. Responses were evaluated using the Inner Strength Scale and the Solution-focused Inventory using compliments. The results showed an interaction between scenario and counselor response in the connectedness score on the Inner Strength Scale. For friendship, scores were higher when the counselor respected their effort compared to giving no compliment. For school performance, scores were highest when the counselor suggested they have external resources. For family relationships, scores were significantly lower when no compliments were received compared to when they received compliments. This suggests that respecting effort to maintain relationships with friends and complimenting great friendships in school performance increase connectedness score. Marginally significant difference of interaction was observed in scores for trusting others in the Solution-focused Inventory. In friendship, scores were higher when the counselor suggested they have internal resources or respected their effort compared to no compliment. In school performance and family relationships, scores were lower when receiving no compliment than when receiving a compliment of any kind. This suggests that trust score increases when a compliment is given.

Keywords: Compliments, solution-focused, inner strength, scene imagination method

付録 カウンセラー応答をもらった感想（一部抜粋）

示唆 内的 リソース への	具体的に褒めてくれてうれしかった。
	努力を認めてもらえたと安心する。
	自分の性格について言ってくれるのはうれしいが、どうしたらいいかの解決がわからないと思う。
	自分のいいところを評価してくれた点がいいと思いました。
	家族に対する思いやりを肯定してもらえたことで、安心感を得ました。自分自身の思いを理解してもらうことができて、とても嬉しい気持ちになりました。
示唆 外的 リソース への	根本的な問題解決には至らないが、友人と協力して問題解決を行うことに対しての意思が芽生えるような気がした。
	良い家族に恵まれていることが分かって嬉しいが、問題解決につながるとは思えない。
	家族関係のことだけでなく、友人関係のことについても触れてもらっているのが、うれしく思った。また、友人と言わずに、「良い友人」と言われたことにより、解決はしていないが、友人に相談してよかった、また、友人に相談したことを否定されなくてよかったと思った。
敬意 努力 への	頑張りを認めてもらえて嬉しい。
	相手が自分のことをよく理解していると思う。
	努力を認めてもらったので、結果がそぐわなくても意味のあることだと思えるようになりました。
	悩んでいる中でも頑張ったことを分かってもらえたと自信になった。
	自分の状況を理解してくれたことはうれしいですが、解決策を出してくれるかどうかについては不安に感じました。
なし	「そうなんです。」の一言だと本当に自分の悩みを親身になって聞いてくれているのか不安になる。
	話は聞いてくれたんだと思うが、そっけなく感じる。
	少し冷たい対応だと感じました。
	あまり話を聞いてくれないような雰囲気があり、疎外感を感じる。

共起ネットワークの各グループに含まれている特徴語は下線を記している